

【オリコンサルグローバル ラオス「国道9号線橋梁改修」で竣工式 実施設計、施工監理など担当】

ラオス「国道9号線橋梁改修」で竣工式

オリコンサルグローバル

実施設計、施工監理など担当

オリエンタルコンサルタンツグローバルが予備設計から実施設計、施工監理までを一貫して担当した、ラオス国における「国道9号線橋梁改修計画」プロジェクトで架け替えられたセカムカーム橋とセタームアック橋の竣工式が10日、サワンナケート県ピン郡で執り行われた。

竣工式典には、サルム



テープカットの様子

サイ外務大臣、スペイン計画投資大臣、ビエンサワット公共事業運輸副大臣、ポーサイ副県知事、

阿部俊子外務副大臣、引原毅駐ラオス特命全権大使、米山芳春JICAラオス事務所長をはじめ、多くの来賓が参列した。

国道9号線は、インドシナ半島を横断する東西経済回廊の一部であり、内陸国であるラオスの中南部を東西に横断する形で、ベトナム国境から第二メコン国際橋が位置するタイ国境までを接続する国際幹線道路となっている。同事業は、国道9号線上に存在する51橋のうち、特に劣化が進行している2橋梁を架け替えるもので、これにより、同国道の安全かつ安定的な交通を実現し、国道周辺地域のみならず同国の経済活動の発展と、ASEAN全体の社会経済開発に寄与することが期待されている。

同事業は、日本ODA無償資金協力によるもので、同国が抱える維持管理面の課題に配慮し、ライフサイクルコストの低減を図るため、新橋の形式には鋼・コンクリート合成床版橋を採用し、同国初の耐候性鋼材が使用されている。施工は安藤ハザマ・JFEエンジニアリングJVが行った。